



## わたしは必死です

ひつ し

伊藤比呂美

いとう ひろみ

わが家の言語は、英語です。娘のトメは九歳、夫は日本語ができません。わたしはいやいや英語を使っ  
て暮らしておりますが、トメに日本語を教  
えておかないと、そのうち親子の会話が  
できなくなる、日本語が、ひいては自分  
がなくなると、わたしは必死です。

小さいときから、トメには日本語の絵本  
を読み聞かせ、歌を歌い、アニメを見せ、  
かなを教え、漢字を教え、市販のドリル  
をやらせてきました。日本人学校には通  
わせていません。カリキュラムも人間関係  
も、日本文化すぎて、抵抗があります。毎  
年夏には日本に帰り、保育園や小学校  
という、子どもの集団に入れて、日本語  
をきたえます。昔は、どんなにきたえた  
日本語も、春になるころには消えてなくな  
ってしまいました(で、英語しかしゃべら  
なくなる)が、小学生になってからは、  
日本語が長持ちします。言語能力のピー  
クである、外国語を教えるなら今のうち  
と思いますが、とてもその余裕はありませ  
ん。

問題は「読み書き」です。周囲は日本語  
がないから、自然と覚えることができませ  
ん。わたしは漢字を必死で教えますが、  
トメは覚えるそばから忘れます。ザル  
で水をくんでるみたいです。小学校二年  
くらいまでは

ザルでもなんとかかなりましたけど、三  
年になったら、いきなり漢字が増えまし  
た。熟語も書き順もむずかしくなりました。

今、トメに必要なのは、ちまちました(そ  
してすぐ忘れる)漢字の反復練習より、読  
む力だ、とわたしは考え直して、必死で、  
トメに本を読ませています。物語だけじゃ  
ない、算数の本も理科の本も、教科書も  
マンガも、読ませたい。でも時間がなか  
なありません。

本をさがしています。日本語の不自由な  
トメでも、すらすら読める本。漢字のな  
い、あるいはルビつきの、文節の区切り  
がわかる本。絵本じゃなく、字が多く、  
九歳の自尊心を満足させられる本。おも  
しろくて、トメががつつきを読まずに  
いられない本。いろんな語彙に触れられ  
る本。……どこかにあるはずなんです  
が。

人の文化とは、とても複雑(と今さらな  
がら……)、語彙も複雑。日常会話だけ  
できても、日本語がしゃべれることには  
ならないってことに、気がきました。

世に出回る日本語の数の膨大さにくら  
べると、トメが触れることのできる日本  
語はこれっぽっち。教えることのできる  
日本語もこれっぽっち。言語とは、ある  
程度たくわえておくと、あとはアタマ  
の中で勝手に増殖していくものだとい  
う真理を知らないと、やる気が失せ  
そうになりますが、わたしは必死です。  
(詩人)